

2024年11月のてがたんは申し込み制にて実施しました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。観察記録のレポートを作成しましたので、ご覧ください。

次回のとがたんは12月14日(土)で、テーマは「飛ぶんだね、不思議だね 種の観察」です。ぜひご参加ください。12月2日(月)の8時30分から電話での申し込みを開始します。市民スタッフの皆さま、次回の下見は12月8日(日)です。

11月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→山階鳥類研究所前→手賀沼遊歩道→水生植物園→釣堀横で解散
- 観察日時/天気：2024年11月9日(土) 10:00~12:00 / 晴れ
- 参加人数：7名(大人7人)
- 市民スタッフ：6名(弘貴さと子、北村章子、石原直子、伊東茂子、小泉伸夫、湯瀬一栄)
- 鳥博職員：1名(脇水徳之)

— 観察した生き物の記録 —

下見で見られたものも含む。

【鳥類】キジ科：キジ(声) / カモ科：マガモ、カルガモ、コガモ / カイツブリ科：カイツブリ、カンムリカイツブリ / ハト科：キジバト / ウ科：カワウ / サギ科：アオサギ、ダイサギ、コサギ / クイナ科：オオバン / カモメ科：ユリカモメ / ミサゴ科：ミサゴ / タカ科：トビ / カワセミ科：カワセミ / キツツキ科：コゲラ / モズ科：モズ / カラス科：ハシボソガラス、ハシブトガラス / シジュウカラ科：シジュウカラ / ヒヨドリ科：ヒヨドリ / ウグイス科：ウグイス / エナガ科：エナガ / メジロ科：メジロ / ムクドリ科：ムクドリ / スズメ科：スズメ / セキレイ科：セグロセキレイ / アトリ科：カワラヒワ / 家禽や外来種：コブハクチョウ(カモ科)、ドバト(ハト科)

【昆虫】バッタ目：ツチイナゴ、ショウリョウバッタ、ツツレサセコオロギ、オカメコオロギ、カネタタキ / チョウ目：キタテハ、ウラギンシジミ、ムラサキシジミ、ベニシジミ、ヤマトシジミ、キタキチョウ、モンシロチョウ、モンキチョウ、ヒメジャノメ、シロオビノメイガ、ヒメエグリバ(幼虫) / ハチ目：ハグロハバチ、ニホンミツバチ、オオスズメバチ / コウチュウ目：ナナホシテントウ / カメムシ目：ヨコヅナサシガメ(幼虫) / トンボ目：アキアカネ、ノシメトンボ / ハエ目：ヒラタアブの仲間

【クモ】ジョロウグモ、ナガコガネグモ、シロカネイソウロウグモ

【草の花】キク科：ヒメジョオン、ブタナ、セイタカアワダチソウ、セイヨウタンポポ、ノゲシ、コセンダングサ、ハキダメギク、カントウヨメナ、アイノコセンダングサ / アブラナ科：スカシタゴボウ / イネ科：チカラシバ、カゼクサ、セイバンモロコシ / カタバミ科：カタバミ、オッタチカタバミ / ツユクサ科：ツユクサ

【植物の実】アカネ科：ヘクソカズラ / アサ科：エノキ、ムクノキ / ウリ科：アレチウリ、カラスウリ / カキノキ科：カキノキ / カバノキ科：ハンノキ、ヤマハンノキ / クスノキ科：シロダモ、クスノキ / センダン科：センダン / タデ科：イシミカワ / ツツラフジ科：アオツツラフジ / ツバキ科：カンツバキ / ナス科：ワルナスビ / バラ科：トキワサンザシ / ブドウ科：エビヅル、ノブドウ、ツタ / ブナ科：コナラ、シラカシ / マメ科：ヤブマメ / ミズキ科：ハナミズキ / ミソハギ科：サルスベリ / メギ科：ナンテン / モクセイ科：ネズミモチ、トウネズミモチ / モチノキ科：クロガネモチ / ヤシ科：シュロ

【菌類】サルノコシカケ科：シュタケ

2024年11月の観察アルバム



今回のテーマは「赤い実、食べた？」でした。植物がつける実の形や色、付き方にはさまざまなものがあります。観察会当日は天気が良く、実際に植物の実が目立って見える様子を観察することができました。越冬に備える昆虫や、冬の手賀沼を訪れる水鳥の観察も行いました。



今月の案内人
弘實 さと子



北村 章子



①園芸品種として知られるカンツバキ。熟すと四方に割れて種子が露出する。



②丸くて赤い実が房状に付くナンテン。葉や実には微量の毒成分が含まれる。

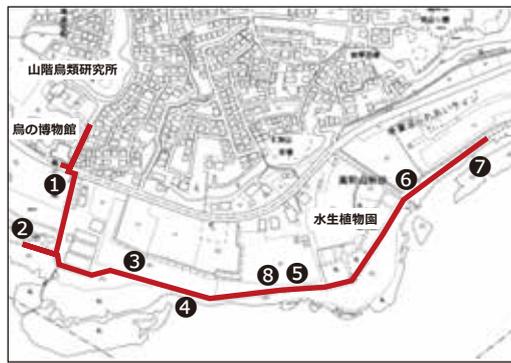


③褐色で光沢のあるヘクソカズラの実。クリスマスの飾りとしても使われる。



④枝豆に似た小さい実がなるヤブマメ。中に黒い斑点のある種が入っている。

歩いたルートと観察した生き物



⑤セイタカアワダチソウの蜜を吸っていたキタテハ。成虫の姿で越冬する。



⑥だ円形で紫色の実を付けるノブドウ。ヤマブドウより苦く食用に向かない。



⑦水面で見られたマガモのオス。幼羽から第1回生殖羽へと換羽中の個体。



⑧桜の木にとまっていたスズメの群れ。同じ木に40羽以上が集まっていた。

今月の鳥 植物の実の色と鳥の色覚

鳥の網膜には、可視光線（赤・青・緑）と、紫外線に対応した錐体細胞があり、幅広い波長の光を認識しています。

鳥を介して種を拡散する植物には、実が熟すと赤色や青黒い実を付けるものがあります。赤い実は、ヒトの目でも周囲より目立って見えますが、青黒い実の表面では、紫外線を反射していて、鳥の目には明るく見えています。

色付きの透明下敷きや、特殊なフィルター付きのカメラを通すと、実が明るく見える様子を疑似体験できます。



アオツツラフジの実



赤い下敷きを通してシロダモの実を見ている様子